

事務事業名	H22新規 南アルプス市奨学金貸与事業		所属部局	教育委員会	単位番号	12517	
			所属課室	教育総務課	課長名	樋口敏明	
	☐ 実施計画事業		所属担当	教育政策推進担当	担当者名	朽原伸幸	
基本政策	基本計画	個性と文化を育む都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項
政 策	23	学校教育の充実	事業区分	01	一般	1	0
施策	36	「生きる力」を育む学校教育の推進		0	1	0	2
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 年度)	法令根拠					
	☐ 期間限定複数年度 (年度)						
事務事業の概要	事業の内容…期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載			事業費の主な内訳 (22年度)			
	財団法人南アルプス奨学会を解散し、その基金13,000千円の寄附を受け創設する奨学金制度。			項目(細節) 金額(千円) 項目(細節) 金額(千円)			
	月額:25,000円(大学生等) 10,000円(高校生)の貸与			貸付金 8,735			
	卒業後10年以内に返還						
				計 8,735			

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

活動	活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない
22年度活動実績	新規奨学生の募集、審査から貸与事務及び返還金事務
23年度活動予定	同上
対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない
市内在住の学生・生徒	名称 単位
	ア: 市内在住の学生・生徒数 人
	イ:
	ウ:
意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない
経済的理由で進学をあきらめないようにする	名称 単位
	ア: 進学率 %
	イ:
	ウ:
上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない
社会に貢献し得る人材の育成	名称 単位
	ア: 奨学生の満足度 %
	イ:

活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	名称 単位
ア: 応募者数 人	
イ: 貸与者数 人	
ウ: 返還者数 人	
対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	名称 単位
ア: 市内在住の学生・生徒数 人	
イ:	
ウ:	
成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	名称 単位
ア: 進学率 %	
イ:	
ウ:	
上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	名称 単位
ア: 奨学生の満足度 %	
イ:	

(2) 事業費・指標の推移

(2) 事業費・指標の推移				単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終年度 (トータルコスト・目標)
年間トータルコスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円		8,735	9,000	10,000	11,000	12,000	
			一般財源	千円		0	1	680	680	680	
	事業費計 (A)			千円	0	8,735	9,001	10,680	11,680	12,680	0
	人件費	正規職員従事人数	人			2	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時間			360	1	1	1	1	
		人件費計 (B)	千円		0	1,606	4	4	4	4	0
		(A) + (B)			千円	0	10,341	9,005	10,684	11,684	12,684
活動指標		ア	人			20.0	30.0	30.0	30.0	30.0	
		イ	人			11.0	15.0	20.0	25.0	30.0	
		ウ	人			13.0	13.0	15.0	20.0	25.0	
対象指標		ア	人								
		イ									
		ウ									
成果指標		ア	%								
		イ									
		ウ									
上位成果指標		ア	%			100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
		イ									

(3) この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか?	経済危機から雇用状況の悪化等により平成22年度から開始。南アルプス奨学会の解散に伴い制度の充実が求められていた。
事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか? また、今後の予測は?	雇用環境の悪化により、継続して就学することが困難となった学生等が増加してきている
事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか?	制度の拡充が求められている

(4) 改革改善の取り組み状況

改革改善の取り組み実施は?	☐ 取り組みしている 【内容!】 ☒ 取り組みしていない 【理由!】
これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	22年度からの事業である
H 22年度に実施した改革改善の内容	なし

事務事業名	H22新規 南アルプス市奨学金貸与事業	所属部	教育委員会	所属課	教育総務課
-------	---------------------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) 【理由↓】 ☒ 結びついている 【理由↓】 平成22年度からの事業であり、条例に基づいて事業が行われている。	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	公共関与との妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある 【理由↓】 ☒ 妥当である 【理由↓】 平成22年度からの事業であり、条例に基づいて事業が行われている。	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある 【理由↓】 ☒ 適切である 【理由↓】 平成22年度からの事業であり、条例に基づいて事業が行われている。	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
有効性 評価	成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☒ 向上余地がある 【理由↓】 ☐ 向上余地がない 【理由↓】 平成22年度からの事業であり、運用方法等を検証することにより向上の余地がある。	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☒ 類似事務事業がある (類似する事務事業の名称を記入↓) ☒ 統合・連携ができる 【理由と具体案↓】 ☐ 統合・連携ができない 【理由↓】 芦安枠を設けることも可能 ☐ 類似事務事業がない	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり 【理由と影響の内容↓】 現に貸付を行っていることと、経済状況から廃止はできない	☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない 【理由↓】 現に貸付を行っていることと、経済状況から廃止はできない
効率性 評価	事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある 【理由・具体案↓】 ☒ 削減余地がない 【理由↓】 条例に基づき実施する事業	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある 【理由・具体案↓】 ☒ 削減余地がない 【理由↓】 最低限の事務量	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
公平性 評価	受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある 【理由・具体案↓】 ☒ 公平・公正である 【理由↓】 条例に基づき実施する事業であるので、公平公正	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり 公平性 ☒ 適切 ☒ 見直し余地あり	今後運用方法等を検証し、効果的な事業としていく

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止(目的妥当性、 、 の結果) ☒ 事業統合・連携(有効性 の結果) ☐ 公平性改善(公平性 の結果) ☐ 休止(目的妥当性、 、 の結果) ☐ 成果向上(有効性 の結果) ☐ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性、 、 の結果) ☐ コスト削減(効率性、 の結果)		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☒</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☒</td><td>☐</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table> 廃止・休止の場合は記入不要				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☒	☐	維持	☒	☐		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☒	☐																				
	維持	☒	☐																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について 運用の検証 芦安地域活性化育英奨学金制度の等号による芦安枠の検討																								
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策 芦安枠について地域への説明		(5) 事務事業優先度評価結果																						
		成果優先度評価結果	対象外																					
		コスト削減優先度評価結果	対象外																					